

空道無門

KUDOMUMON VOL.6

かつて、大道塾の機関誌として発行されていた雑誌「大道無門」。情報の発信がウェブ中心で行われる時代となったことで、10年ほど前にその役割を終えましたが……。

「やっぱり大道塾・空道の記事を紙で読みたい・保存したい」というリクエストが絶えないので、こじんまり復刊!

年2回、春・秋に発行される全日本大会パンフレット内にて、掲載いたします。

2016 体力別全日本大会 展望

清水亮汰、最後の-250クラス出場で、初対決なるか? 昨年王者・加藤、コノネンコを悶絶させた男・笹沢

【総論】

一昨年は清水亮汰、昨年は川下義人と、U19から一般クラスに昇格した選手が、いきなり上位進出を果たすケースが増えている。今年、一般クラスに昇格、全日本に参戦するジュニアチャンピオンは、-240の伊東宗志、女子の伊藤梓・小柳菜生ら。彼ら、10代のホープを、20代～50代まで幅広い世代が迎え撃つ。フィジカルから、打・投・極の幅広い技術まで、すべてを活かしうる空道ならではの闘い模様が期待される。

-230クラス

本年に入って、シャフカット・イシュプラトフが世界選手権2連覇のエドガー・コリヤンをノックアウトして優勝するなど、ロシアでも世代交代が進んでいるこの階級。そのシャフカットを2014年の世界選手権で制した目黒雄太が、今回の全日本では、頭一つ抜けた存在である。目黒は世界選手権後、2015年全日本(-230クラス)を初制覇。続く2015年全日本無差別選手権でも、準優勝。今春の関東地区予選では、グラウンド状態での下からの廻し蹴り(1→2)で試合を終了させるなど、圧倒的な強さをみせている。23歳となり、体重を階級のリミットまで落とすのが難しくなっているようなので、場合によっては、-230クラスでの出場は、今回が最後になるのかもしれない。昨年、全日本(-230クラス)決勝を争った田中正明、昨年全日本無差別ベスト8の小芝裕也、今春の東北地区王者・近田充ら、追う立場の選手は、なんとしてもストップを掛けたいところだろう。

-240クラス

昨年、U19から昇格するや一般クラスでもこのクラスの全日本王者となった川下義人が連覇を達成するか? しかし、川下は王者となってから半年後の全日本無差別選手権で、同階級の國枝厚志に敗れており、その國枝に一本勝ちした田中洋輔が同大会ベスト4入りを果たしている。この田中洋輔をはじめ、08・09・11年の全日本王者・田中俊輔、U19から昇格する山崎順也・伊東宗志、昨年、川下と一進一退の攻防を演じている服部晶光(3右)・神代雄太らが、今大会、川下の首を狙う。なかでも、11・13年の全日本(-250クラス)ファイナリストで、今回より階級を下げてきた魚津礼一は、関東地区予選でハイキックによる豪快な一本勝ち(4→5)をみせている。2014年の世界選手権で-250クラスの日本代表にギリギリでなれなかった魚津としては、その無念を全日本初制覇というかたちで晴らしたいところだろう。

-250クラス

昨年、セーム・シュルト以来18年振りに、大道塾外の選手として全日本を制した加藤智亮は、空手団体の選手だが、今春の関東地区予選でも、腕十字で一本を奪うなど、空道に即したスタイルをみせ、優勝。昨年の全日本決勝でポイントを奪い合うシーソーゲームを演じた藤田隆との再戦が楽しみだ。しかし、それ以上に注目が集まるのは、昨年秋の全日本無差別選手権を制した清水亮汰、2012年全日本(-250クラス)決勝でアレクセイ・コノネンコを前蹴りで悶絶させた笹沢一有が、このカテゴリーに復帰することであろう。清水vs加藤、清水vs笹沢、笹沢vs藤田…どのカードを想像しても、ワクワクする。昨年の全日本、序盤のリーグ戦で加藤と五分の展開をみせていた杉浦宗憲のプレイクルーにも期待したい。

-260クラス

安定感といえば、2014年の全日本王者・加藤和徳が優勝候補筆頭か。しかし、昨年は、その加藤を制し、山田壮が悲願の初優勝を遂げている。絞めで加藤から一本を奪ったことのある渡部秀一、昨年全日本無差別ベスト4の押木英慶、ホープの伊藤新太も侮れない。さらに、階級を下げて2014世界選手権-270クラス日本代表・辻野浩平が、どう割って入るか? 混沌とした状況のなか、誰かが、絶対的なエースとして、説得力のある優勝を遂げることを期待したい。

+260クラス

無着衣の総合格闘技(いわゆるMMA)での研鑽を重ねる加藤久輝が空道戦線に復帰するまでの間は、188センチ・120キロの体格を誇り、柔道全日本選手権ベスト16の組み技と、タイ人コーチとのマンツーマントレーニングで得た打撃の技術をもつ野村幸汰の天下が続くのか? 昨年、特例として17歳ながら一般クラスにデビューし、全日本決勝に進出するも、ケガのため、野村との対戦を辞退した岩崎大河が、そのストッパーになりうるのか、初対決に注目したい。

女子クラス

昨年、春の大会では、今野杏夏が大谷美結を下して優勝し、秋の大会では、大谷が今野を下して優勝している。小学生時代に空道の道に入り、一般部昇格初大会で全日本優勝を果たした今野と、東海大学柔道部のメンバーとして活躍したのちに空道競技に挑みはじめ、急速の成長を遂げた大谷。おのずとラバーマツチの結末に興味があるが、U19で輝かしい戦績を残してきた小柳菜生・伊藤梓の一般部昇格参戦が、波乱を呼ぶ可能性もある。小柳は、17歳にして関東地区予選を制しての特例出場。少年部出身ならではのキレ味鋭い上段蹴りをもつ。



空道 私の得意技 清水亮汰

第5回

Ryota Shimizu

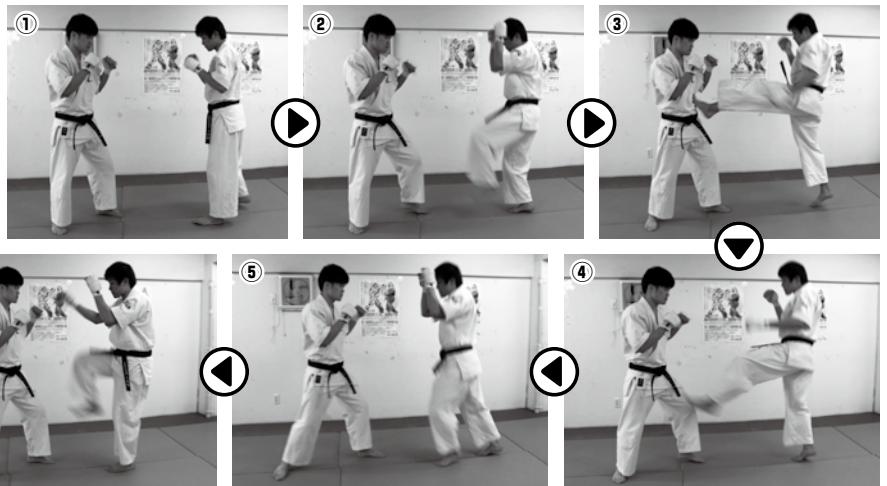
ジュニアルール (顔面パンチ禁止)が育んだ サイド&バックステップを 活かした蹴り技

一昨年世界選手権19歳で-250クラス準優勝、昨年20歳で全日本無差別優勝と、快進撃を続ける清水亮汰。そのテクニックを本邦初公開！小学1年生で空道をはじめた清水、その技術の骨子は、顔面パンチ禁止のジュニアルールで養われたものだった……。



I. 蹴りをハネ返されてバックステップしての上段前蹴り

相手の前進に合わせ、左前蹴りでストップ(1~3)。この際、相手の前に出る勢いに押されがちになるが、それに逆らうことなく、右足を後方へスライドさせ(3~5)、その着地によって得るマットからの反力を活かして、右上段前蹴りに繋げる(6~7)。*鏝迫り合いからの引き面、のようなエッセンスをもつ技である。



POINT!

ストップをした際、下がるまいと右足を踏ん張ると、体勢が崩れ、かえって相手に攻め込まれやすくなってしまいます(8~10)。相手の勢いに逆らわずに後退することで、バランスを維持することがこの技術のキモとなっている

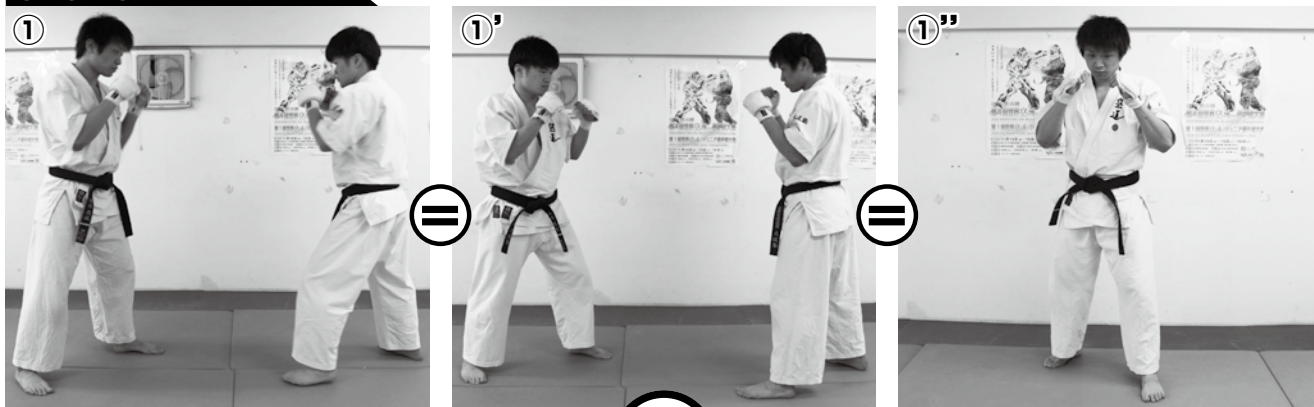
上段を蹴る時、上体を後方へ傾けながら膝を高く上げてから蹴ると、相手に悟られてしまう(11~12)。なるべく途中までは、中段前蹴りと同様のモーションで蹴ることが大事だ。



II. パンチに対するカウンターハイキック

相手の右ストレートに対し、左前方にヘッドスリップしながら、右ハイキックを放つ(1~4)。右ストレートを放つ際、左腕のガードが甘くなっている、相手の左側頭部に巻きつける。往年の名王者・酒井修の得意技に近いかたちだ。

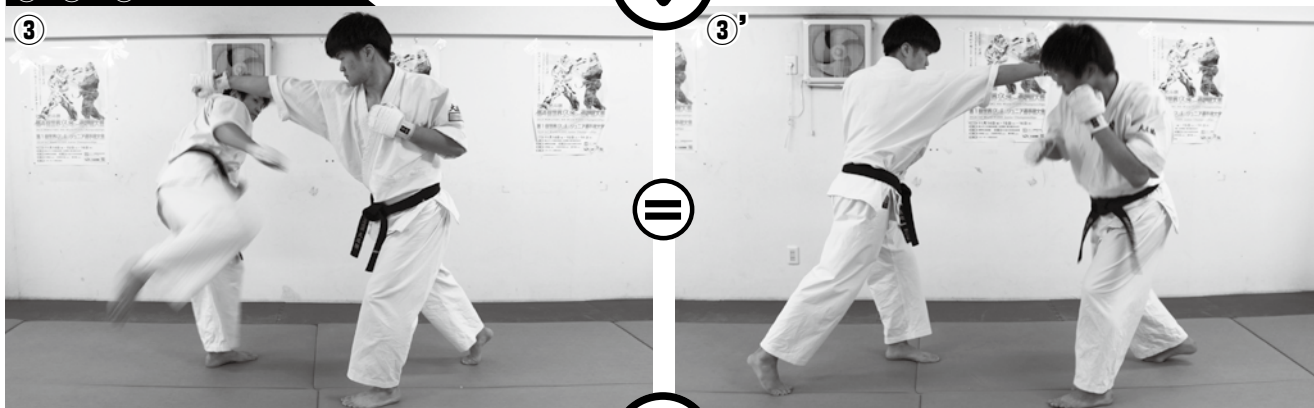
①=①'=①'' 角度の異なる写真



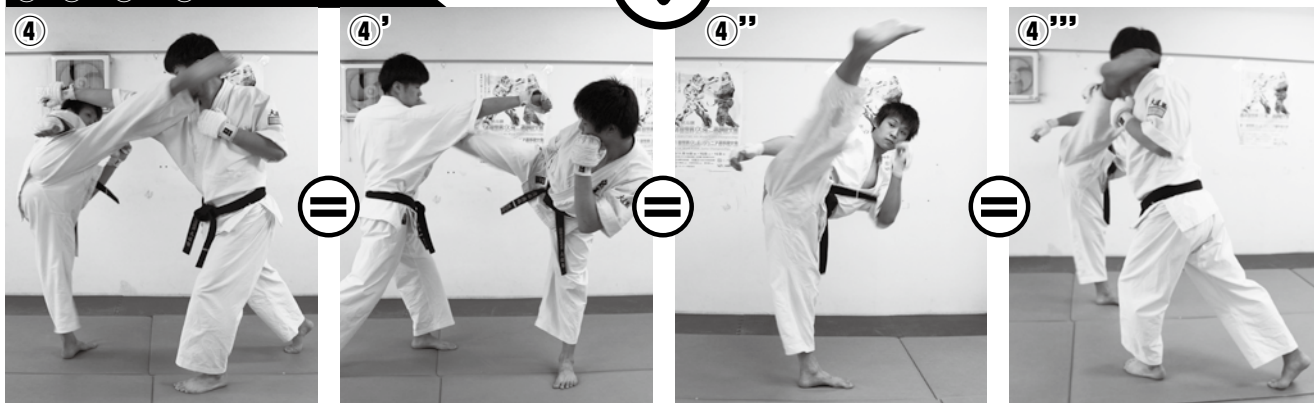
②=②'=②'' 角度の異なる写真



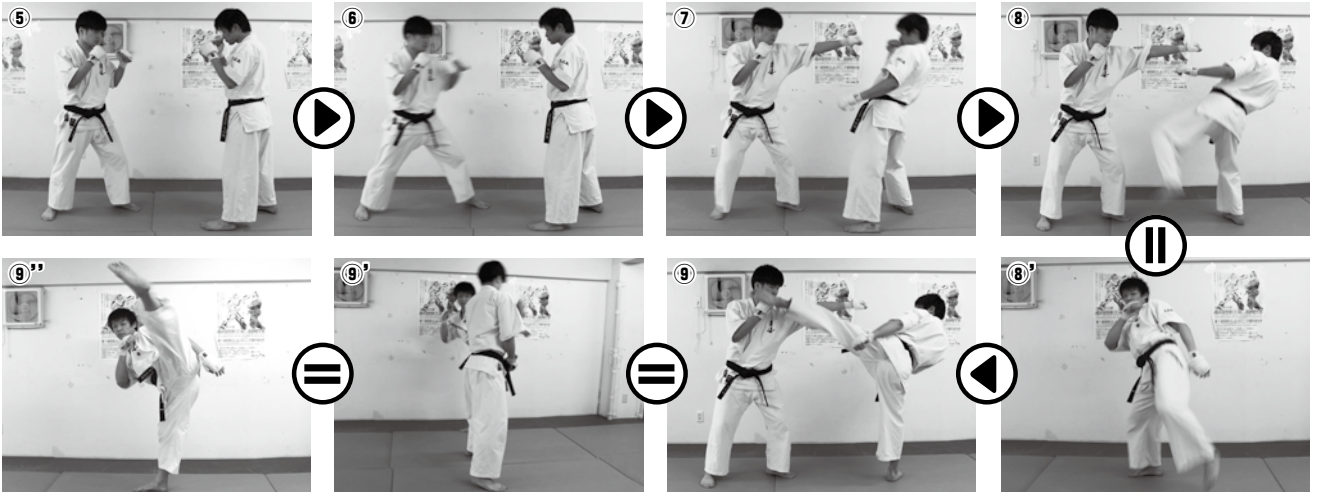
③=③'=③'' 角度の異なる写真



④=④'=④''=④''' 角度の異なる写真

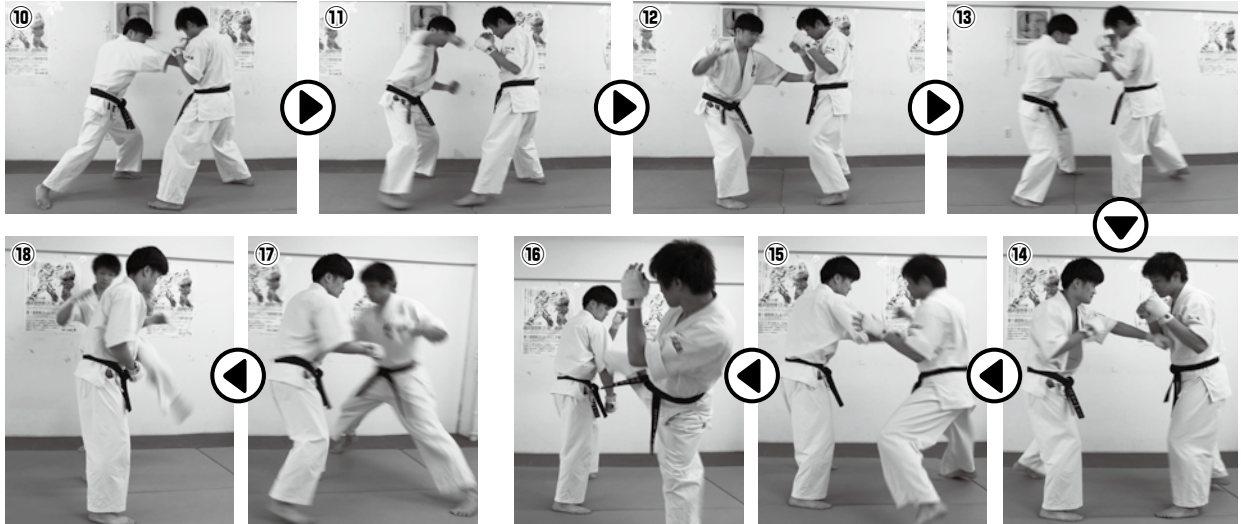


相手のジャブに対し、スウェイ(右後方へヘッドスリップ)しながら、左ハイキックを放つ(5~9)。ジャブを放つ際、右腕のガードが甘くなっている、相手の右側頭部に巻きつける。

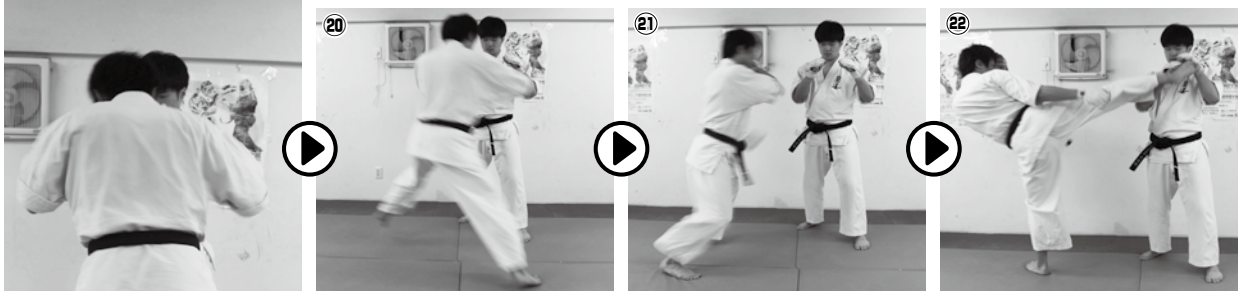


POINT!

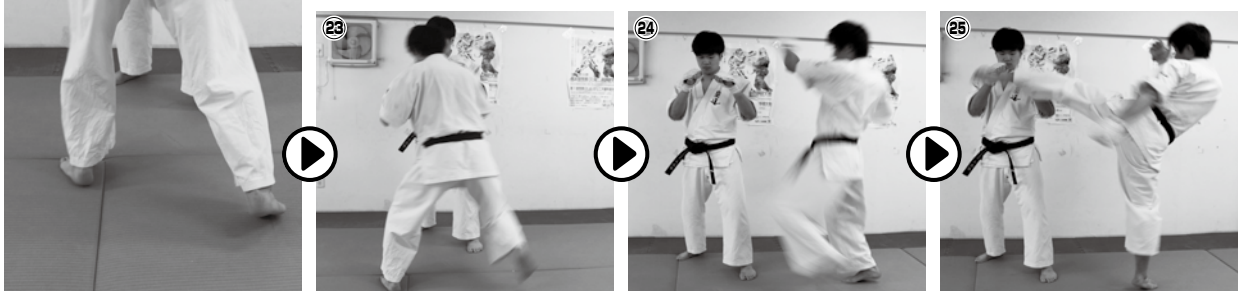
これらの技のベースとなっているのが、幼少期から親しんだ顔面パンチ禁止ルールの組手で培われた「回り込み」の感覚である。顔面パンチ禁止ルールでは、相手の攻撃を正面から迎え撃とうとしたら、体格の大きな相手のパンチの突進に押されてしまう(10~14)。そこで、清水は、相手のパンチに合わせて左右に回り込んで中段・上段への回し蹴りを放つ(14→15→16、14→17→18)ことを覚えた。その感覚が、空道ルールにおいても活かしているのだ。



19 正面からみた左への回り込み(20~22)

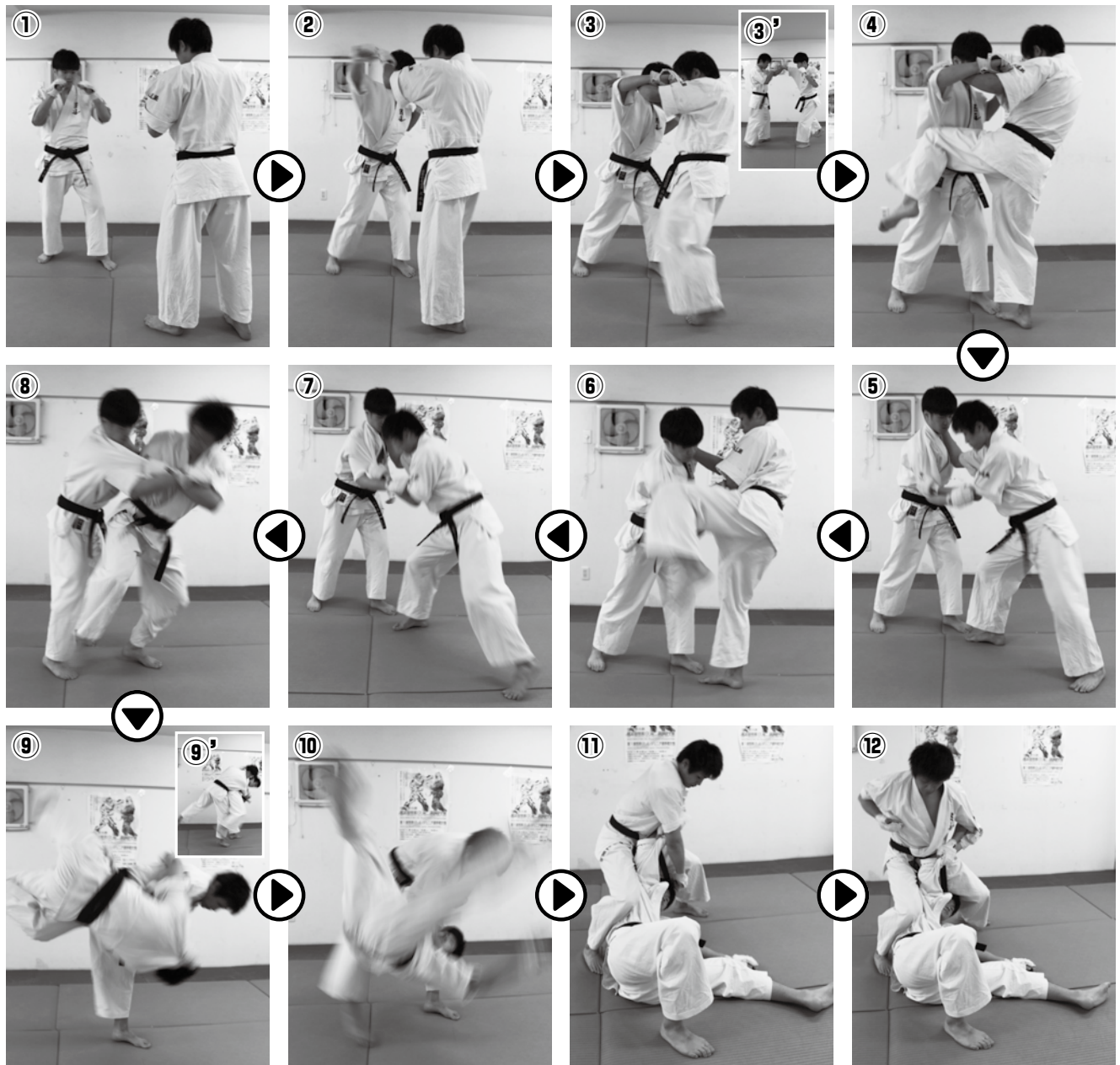


正面からみた右への回り込み(23~25)



Ⅲ. 打撃で相手の前進を誘発しての払腰

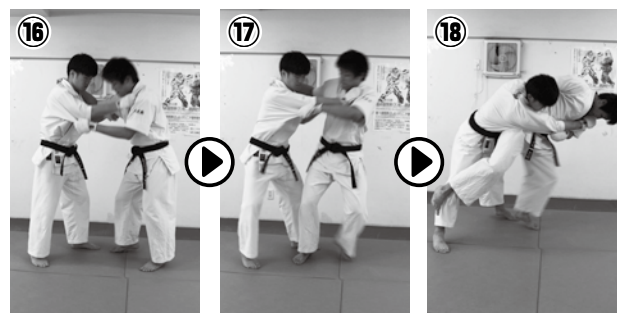
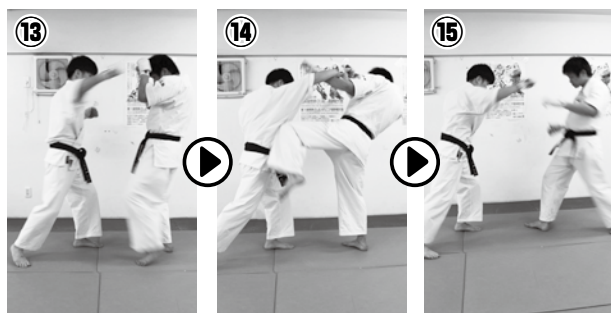
相手のパンチをガードし(1~3)、組んでから、空いている脇腹へ膝蹴り(4)。相手が中段を守ろうと腕を下げたら(5)、顔面へ膝蹴り(6)。打撃を連打していると、打ち返そうと相手は前に出てくるので、そのタイミングに合わせて、払腰へ(7~10)。キメ突きで制する(11~12)。



POINT!

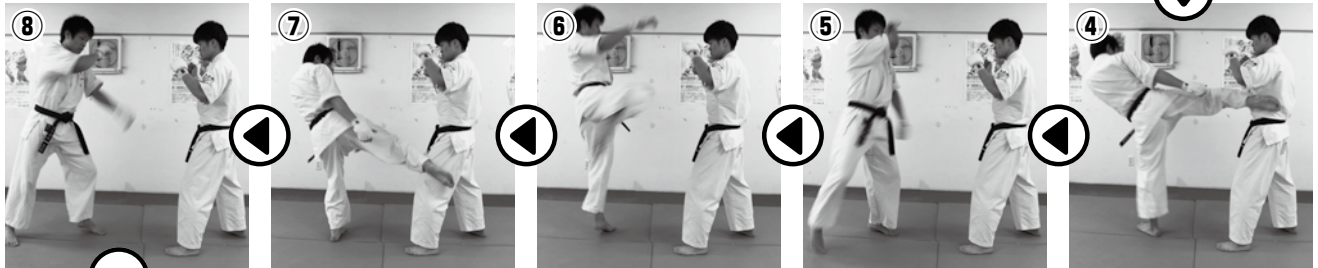
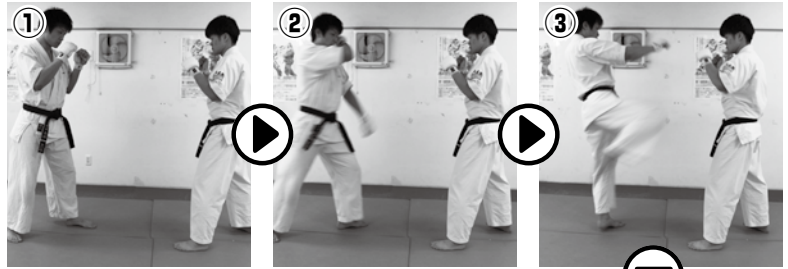
パンチに合わせてカウンターで膝蹴りを合わせると、前に出る勢いの強い海外の選手には吹っ飛ばされがちになる(13~15)。バランスを維持するには、ガードして組んでから打撃を放った方が、シユアである。

組んでから打撃を打たずに、払腰に入っても、相手を引き出すことが出来ず、自護体を取られ、踏ん張られてしまう(16~18)。組み技競技の専門的な経験がなく、投げの「掛け」の段階に入る前の「崩し」、「つくり」が不得手でも、清水のように打撃を活かせば、相手が自ずと崩れた体勢になってくれるため、投げを成功させることができる。



IV. 横からか前からか、上か下か…の波状攻撃

右中段回し蹴りを放ち(1~4)、次にあえて大きなモーションで伸びあがってから(5~6)、軸足の膝を曲げ、下段へ(7)。さらに股関節を開いた振り出しから(8~9)、正面を突く前蹴りへ(10)。最後は足を出しておいて(11~12)、その引きの反動でパンチを放つ(13)。一発目の中段回し蹴りを強く放ち、十分に脅威を感じさせておくことが、一連の流れの前提となる。



正面から見たところ

上とみせて下へ(5'~7')

横とみせて前へ(8'~10')



左足でも、スイッチミドル→スイッチミドルのモーションからロー…というように同様の展開ができる(14~21)

